

静音型ブレーキ・スピードテスタ

薄型&低騒音化により都市型整備工場の注目度が向上



ベルトの寿命は「法定耐用年数(13年)を超える耐久性を確保している」(機械工具商社)とのこと。すぐに摩耗して頻繁に交換するといった心配はない。

都市型整備工場に対応

「ブレーキ・スピードテスタ」は、速度計試験時の騒音対策を施した『静音タイプ』を機械工具商社が発表して以来、主に都市型の新車販売店、整備工場からの注目度が高まっている。

各社が「静音」を重要なニーズと受け止めている背景には、「立会い車検」で来店したお客様に配慮する点がひとつに挙げられる。

速度計試験においては、およそ90db(デシベル)の騒音が発生するわけだが、静音型テスタは約70dbと2割から3割ほど騒音を抑える効果がある。

各社の製品をみると「ローラー」に特殊な加工(写真参照)を施しているのが分かる。その表面は「エンボス」(浮彫り模様)や「ローレット」(ギザギザの網目模様)といった加工が施されており、これが騒音低減のカギとなっている。

また、これらのテスタは都市部での多層階工場

にも対応する省スペース設計であるのも特徴だ。

コンビネーション型も新タイプ登場!

一方「コンビネーション型テスタ」も従来にないコンセプトを持った製品が登場している。これまで同テスタが打ち出した特徴は、後輪側のテスタがスライドする仕組みになっていて軽自動車からトラックまでホイールベースに応じてローラーの位置を自由に設定できた点にあった。

これによりドライブオン感覚で検査時間の短縮を図ることができたのだが、装置がスライドするスペースを余分に確保する必要があった。

上の写真をご覧のとおり、新しいタイプは後輪側に「ベルトコンベア」を用いており、検査するクルマのホイールベースに合わせて装置を移動させる手間が省けるようになっている。また機構上、スライドする仕組みがないので、工場のスペースを有効に活用することができる。